



私にとっての ラグビーワールドカップ2015

会員 小塩 康祐 (66期)

ラグビーワールドカップが2015年9月18日～10月31日、ラグビー発祥の地イングランドで開催された。

ニュージーランドの史上初の連覇で幕を閉じるという結果自体は、下馬評とおりではあったが、そこに至る過程ではいくつものドラマが繰り広げられていた。

開催国イングランドの予選敗退、ジョージアの2勝、ナミビアのボーナスポイント獲得等、いずれの試合にもドラマがあった。しかし、日本対南アフリカ戦がワールドカップのベストゲームであったことは間違いないと思う。

南アフリカ戦の勝利は、メディアで大きく取り上げられ、ラグビースームを日本に巻き起こした。「奇跡」、「桐谷美玲が吉田沙保里選手を倒すようなもの」、「史上最大の番狂わせ」といった表現で報道されたが、それほどの偉業であった。

私自身、現地で観戦をしていたが、正直なところ、勝てるとは思っていなかった。試合前に、テレビ局や新聞社のラグビー専門記者と話しても、誰もが、勝てると思っていなかった。

しかし、試合前とハーフタイムに廣瀬俊朗選手（日本代表前キャプテン、南アフリカ戦はレギュラーメンバーから外れていた）と話した際に、廣瀬選手は、「必ず勝てます」「前半は想定とおりの流れ、勝てると思います」と力強く語っていた。

ハーフタイム時点でも、日本の勝利を信じていたのは、おそらく、日本代表メンバーだけであったと思う。後半ラストワンプレーの時点で、日本代表は29対32で負けていた。

ラストプレーの選択権は、日本代表が得た。ペナルティーキックを選択して3点を得れば、同点で試合終了という展開。同点でも十分すぎる結果であった。

エディー・ジョーンズヘッドコーチもインカムで、選手に対してペナルティーキックを指示していた。しかし、選手は、トライの5点を得るべく、スクラムを選択した。



南アフリカ戦チケット



廣瀬選手(中央)とともに
廣瀬選手大学同期の林周一郎氏(左)
と筆者(右)

選手がスクラムを選択するか否か迷っていた際に、スクラムリーダーの木津武士選手は、「スクラム！」と大きな声でスクラムを選択することを求めている。それほど、自信があったのだと思う。この瞬間、会場の雰囲気は一変した。会場の全員が日本コールをし、日本代表の背中を押した。その声援に応えるかのようにスクラムを組み、ボールを展開し、日本代表選手全員でボールを繋ぎ、見事トライを決めた。結果、34対32で日本が勝利した。あの瞬間は忘れられない。

個人的な話をさせてもらおうと、畠山健介選手や五郎丸歩選手が、早稲田大学ラグビー部のチームメイトであり、一緒に練習してきたメンバーであったので、非常に嬉しかった。また、廣瀬選手ははじめ他の代表選手とも様々な活動を通じて、懇意にいただいているので、彼らの努力が報われたことが素直に嬉しかった。そして、4年前のニュージーランド大会は、私自身、司法試験浪人が決まった直後であったので（たしか合格発表の日に開幕した）、ワールドカップを一試合も観戦しなかった。4年後、現地で、かつ、同世代の日本代表の選手と喜びを共有できたことで4年前の自分に対して、少しは誇れる4年間を過ごしてきたのではないかと思っている。

このように、私にとって、ワールドカップ2015は特別な大会であった。

4年後、ワールドカップ2019は日本で開催される。4年後の自分に誇れるように、また、4年間頑張っていきたいと思う。